えんちょう先生の わくわくだより NO. 25

H28. 12. 22

たのしかった！ みんなのクリスマス会



クリスマス会実行委員の先生達が、何度も集まって計画をしてくれたクリスマス会は大盛り上がりでした。開演は陽子先生の上手なピアノのＢＧＭからの始まりです。年少さんは赤い三角帽子、年中さんは金や銀の星のお面、年長さんは緑の三角帽子、それぞれ自分達で作った被り物を頭につけての参加です。未満児組のお友達は身軽に参加。２本のツリーと部屋中飾られた、こども達の製作品が雰囲気を盛り上げてくれます。「サンタさんが早くきてほしいね～」と大きな声で歌った「北の国から」に続いて、先生達の「てぶくろ」の劇。ウクライナ民話でこども達もよく知っている冬の森の中のお話です。杉本先生が犬を連れて登場、森の中に手袋を片方落として行ってしまう所からお話は、始まります。森の動物が次々に、その手袋に入って暖まろうとやってきます。でも、その手袋に入るには、ネズミさんの「何か、お得意な事を見せてくれたら入れてあげるわ」の一言で、張り切る動物達。ネズミさんは、歌に合わせた鞠つき、かえるさんは紐を持っての剣玉（ひまわり組には剣玉名人のＡちゃんがいて、教えて貰ったらしい）ピンクうさぎさんは、「私は、歌が得意なの」とドラエモンの歌を、おしゃれ狐は、きらきらのドレスを身にまとい、「私はおしゃれが得意なのこれでどうかしら？」と言いながら、手品を。灰色オオカミは、縄跳びの二重とびや交差跳び、いのししは「困ったなあ？得意な事は無いけど、そうだ僕と相撲を取って勝ったらいれておくれ」とちびねずみと相撲で勝って手袋の中へ・・・最後に登場したのは、パンダ君、ゆきこまダンス暦の長いパンダ君の「恋ダンス」にこども達も一緒に手振り身振りでのりのりでした。

さて、サンタさんの登場！

ジングルベルの曲に乗って、こども達が手拍子で迎える中、二人のサンタのおじさんが袋を担いで鈴を鳴らしながら登場です。小さい未満児組のお友達も泣く子がなく、白いおひげのサンタさんに見入っていました。代表の年長さんから、「どこから来たの？」「何がすきなの？」「夏には何をしているの？」「何歳なの」の質問に応えて貰ったね。答えはお家で聞いてください。サンタさんに椅子で一休みして貰って、みんなが出し物を見せる事にしました。「サンタッタ」の曲に合わせて、年児毎に練習して来たリズムの始まりです。年少さんは、それぞれのかわいい振り付けで、年中さんは、運動会で踊った恐竜サンバを取り入れて、年長さんは、女子の音楽隊の前で、男子の、ピコ太郎ダンスを・・・未満児のチビッ子達は、手に、音のするおもちゃを持って、振りながら踊りました。サンタさんからもかわいかった！」「かっこよっかった！」と誉めてもらったね。見ているだけでなく、こうしてみんなが参加しながら楽しむクリスマス会っていいなあと思いました。サンタさんからプレゼントを貰い一緒に写真も撮りました。



司会の山本先生が「先生達が三日三晩練習した劇を始めます」・・で始まった手袋の劇。忙しい時間の中で、こんなに楽しい劇をやってもらえ、こども達もしあわせだなあと感じながらシャッターを切りました。先生達は役者だね。





「私は恋ダンスをおどるわ！」



年長のＫ君が「園長先生、サンタさん、ひげにゴムがみえたよ」と言うから、「今日はひげのウイッグかねえ」と思いつきばったりに答えると「きっと、あわてて、ひげをそっちゃったんじゃない」と助け舟を出してくれたてくれたＳ君。
年長さんは、本物じゃないとわかっていても、ニヤニヤしながら、うなずいてくれる成長がある。
前に座っているサンタさんに、そ～と「たまにはこんな所を見るのも楽しいんじゃないですか」に二人のサンタさんはニコニコとうなずいて頂きました。「案外、体力がいるねえ」と言いながら、急いでハワイとスエーデンに帰っていかれました。サンタさんありがとう。

